

資料館だより

発行所

高松宮記念ハンセン病資料館
〒189 東京都東村山市青葉町4-1-13
電話 0423-96-2909
FAX 0423-96-2981
郵便振込 00130-7-764159
高松宮記念ハンセン病資料館運営協力会

イベントとガイドで 啓蒙と理解深まる

高松宮記念ハンセン病資料館が開館してはや一年半が経ちましたが、その間、多くの皆様からご支援ご鞭撻を頂き乍ら大過なく一九九五年の新春を迎えることが出来ましたことを関係者一同、先ず御礼を申し上げます。

昨年前半は阿部正英、パステル展、ゼミナール「ハンセン病を探る」、全生園・復生病院昔むかし写真展、開館1周年記念シンポジウム「らい予防法改正問題をめぐつて」などのイベントを開催しました。後半も難病団体（七団体）の交流会、国吉信遺作展、全生園看護学生の「資料館建設の意味を考える」展などを開催し、多くの方々の関心を集めて参りました。

開館以来の来館者は昨年十一月までに一万五千人を

越え、一日平均四十人台を保っております。来館者の四割強は団体（二〇七団体六五〇六人）であり、その

昨年九月以来館した団体の多くがレポートや感想文を書き、送ってくれましたが、その数は八団体で三

主なものはやはり看護学校関係で、北海道から鳥取まで三十四校に及び、中には三回も四回も来館している学校もあります。

百十七通に達しています。また十月以降の館内「来館者の声」も百通を越えており、ビデオや運営委員の話、ガイドの展示説明等が来館者に徐々に理解されてきているものと思われます。

特に最近は地元東村山市

の小・中学校二十二校の教頭会と校長会、秋津東小学校、青葉小学校の生徒たちや、清瀬市の小・中・高校の生徒、中学校の社会科の先生方なども来館されています。

（略）



謹賀新年

立教大、上智大、中央聖書学校、桜華女子学院、衛生福祉大学看護科（栃木）などの学校関係に、曹洞宗宗務庁、真宗大谷派を始めとする仏教関係、各キリスト教関係の来館者も多くありました。

また厚生省放射線技士会（東京・埼玉）、全国介護研修会、栗生の看護婦さん一行など幅広い層の来館があり、ハンセン病の理解と啓蒙に明るいものを感じております。

資料がいっぱいでも生きっここ欲しい

成田 稔

当資料館の展示資料は、来館者には自由に見てもらつてゐるが、事前に申し込めば、一時間ほどかけて館員（当館運営委員）が説明もする（有料）。

説明に当るのは、平沢保治委員がほとんどだが、ときには佐川修委員が代る。両委員ともハンセン病の回復者であり、多磨全生園患者自治会の役員を永く勤めていることもあって、話に実感がこもつていて上に巧みである。

偏見と差別をテーマにした資料館は限られており、しかも病気（ハンセン病）についてのそれとあって、看護学生たちの来館が少ない。未だ構想の域を出ないが、近いうちに医学的資料の展示を予定しており、これが実現すると医

学生たちの来館も増加しう。ただ何ごとによらず、過去の事実を実感として印象付けるのは、かなりくらしも容易ではないが、平沢委員らに届く看護学生の感想文を読むと、強烈に印象付けられているのがよく分かる。

かならずしも容易ではないが、「見ただけ」の資料に終らせず、

「生きた資料」になることを目指したい。

（当資料館運営委員長）

資料館西側の畑に花木を移植

今年度の全生園第一セ

ターリー整備工事に伴ない、管理棟南側その他に植えてあった金木犀、紅梅、紫式部などなかなかまとくちなしなど十本を資料館西側の畑に移植して頂きました。



金木犀の移植作業

れ。やはり私のような第三者と、偏見と差別の苦難の中に身を置いた当事者との違いだろうか。それにしても、平沢・佐川両委員のボランティア的協力に、いつまで頼れるかは疑問である。できれば今このうちに、展示資料に直接

されたいものだが

間接関わりのある人々の声を、録音して保存しておきたいものだが……。

初夢で終る企画かもしれないが、「見ただけ」の資料に終らせず、

「生きた資

料」になるこ

とを目指した



説明を聞く青葉小学校生

章の中から、展示資料の持つ意味を逆に教えられたりするが、そこに平沢委員らの説明の確かさがうかがわ

年末年始の資料館休館のお知らせ

12月27日(火)より新年は1月6日(金)まで休館致しますので、よろしくお願い申し上げます。

団体来館者から 300を越す感想文やレポート

人間同士の関わりを

栃木県立衛生福祉大学
保健看護学部本科 女性

資料館内に展示されたいた
数々の展示品、また患者さんか
ら直接の説明を受け、今まで知
らなかつた世界であつたため、
とても衝撃的であった。好きで
なりたくてハンセン病にかかる
わけではないのに、周囲から

でも現在は全生園内で人間対人間同士の関わりをされていると今回の見学で確認できた。説明して下さった方が言つて下さつた護とは特別なことをするのではない。偏見をもたず人間同士の関わりをしていて下さい」という言葉を忘れず、今後看護をしていくたい。

宗教者としての自覚を
曹洞宗僧侶 群馬 S

300を越す感想文やレポート

今はすでに日本では絶滅

けるとの声もあり、この程度には戦前戦後の雑居部屋二体を追加しました。

二階展示場の第二コーナーには戦前戦後の雑居部屋が復元されていますが、観覧者は誰でもこの部屋を見ると、ギョッとするようですが、ギョッとすると、八人部屋に五体のマネキンでは迫力に欠けます。しかし、八人部屋に五

雑居部屋の住人
七人にのえる

宗教者としての自覚を
曹洞宗僧侶 群馬 S



していると思っていたハンセン病が、このような形で法の基で隔離され、同和問題以上の「過去、現在、本人」という差別意識を持たれている姿を見た時、とても悲しい思いがしました。資料館の子供たちの写真を見た時、ふと「もし自分の家族、自分の子がこの病魔に犯されたら」と想像したら目淚が浮かんでいたたまらない気持ちになりました。

時代背景とはいえ、民衆を惑わし、今までその根強い差別意識を生み出した日本仏教の「罪」に対し、深い怒りを覚えます。同時に宗教者としての自覚と

頂いたり、お話を聞いたりして、ハンセン病の人があんまり人間なのにとてもひどい差別を受けていることを知り、悲しくなりました。

これは実際にあつたことで、この事実は忘れてはならないことだと思います。

私たちの知らない過去に

は、この資料館だけでは伝えることが出来ないくらい、そして私たちの想像をはるかに越えるくらいの事実があつたのだと思います。

これから看護の道に進もうとしている自分にとっては、常に相手の立場に立つ

責任の重さ、「言葉」の重み、恐さを痛感しました。このような差別は宗教以前の人間として許されないとだと思います。

常に相手の立場で
小樽病院高等看護学院
25期生 K

見学は一生忘れない
米子病院附属看護学校
27回生 F生

て物事を考え、行なつていてことを忘れてはいけないと思いました。

来館者の声

写真に見えたえが

●学生

19才 女性

今回で二度目の訪問です。部屋の中に四人の人形が座っているのがとてもありました。原爆資料館を思い出しました。写真なども多く展示されており見ごたえがありました。

●学生

18才 女性

大学の授業でハンセン病の研究をすることになり、野に伏し、山を越え、村から町へ、庶民のための極楽往生と念佛を広め、一生を旅した僧がいた。名を一遍智真といった。

一遍は延応元年、伊予(愛媛県)に生まれ、十才で仏門に入つた。諸国を行脚し修業を積んだが、三十六才のとき、熊野本宮証誠殿で熊野権現より念佛賦算の啓示を受け、だれ彼の区別な

この資料館に来てみて改めて研究の意欲というか、やらなければいけないものが出てきた。

●その他

27才 男性

病気についてのくわしい資料等が不足していると思う。いつの時代も病気に対しての差別等はあまり変わっていないと思う。現在も工

イズ等の問題がある。

●その他

50才 女性

非常に感動しました。同じ皇族でもやはり高松宮は、

東村山市では十一月に市

く南無阿弥陀仏を唱え、お札を渡すことが「仏門の道」と悟つた。

一遍は遊行上人といわれ

めながら人々を熱狂的な信仰に導き、時宗の開祖となつた。

「一遍上人絵伝」も「聖

社会、風俗を

生きいきと伝えて

いるが、同時に癩者、

非人、乞食僧などをグル

先駆者②

一遍上人

一一三九〇一二一八九

和田峠の観音堂(兵庫県)
で五十一才で亡くなるまで
諸国を巡り、踊り念佛を勧

示を受け、だれ彼の区別な

いと思想。
●会社員

24才 男性
もつと広く宣伝してもいい

う。あまりにも知らなかつたことが多く、改めて自分

の不見識を思い知らされた。

●小学生

10才 女性
ハンセン病を知る上でどうもよい展示の数々だと思

う。あまりにも知らなかつたことが多く、改めて自分

の不見識を思い知らされた。

●主婦

41才 女性
もう少し社会復帰した人

ハンセン病にかかった人はかわいそうだと思いま

た。とくに「東村山駅」という所を読んで、人力車をひく車夫はひどいと思いま

した。またきっとリアルに知りたかった。

●会社員

24才 男性
大変偉大な方であつたと感じました。

●会社員

24才 男性
もつと広く宣伝してもいい

う。あまりにも知らなかつたことが多く、改めて自分

の不見識を思い知らされた。

●会社員

24才 男性
もつと広く宣伝してもいい

う。あまりにも知らなかつたことが多く、改めて自分

の不見識を思い知らされた。